



〔サロン・あべの〕3月の出会い
れたお話を伺いました。

春本番の日差しが暖かい3月21日
(土) 午後1時〜4時、育徳コ

「介護のこころ」

人は生かされていて、いつかは死を迎える。死なない人はいない。安心して生かされること、その人を見て生活史を知って介護をする

その人の人となりがよく分かり、新しい発見もできる。



母を100歳、姑を93

ふたりの母を介護 ～親守り、親守り、毎日親守り～

ミニユニティーセンター2階・研修室において、横尾禮子さん(写真)をお迎えして「姑さんとお母さん」を同時に見守り介護をさ

う。その人に寄り添い本人の気持ち大切に扱われるべきものと思

義母は農村に住んでいたが、高齢と共に体調を崩して大阪に

歳で看取った。年齢を重ねないと理解できないことや分からないこともあるが、「命」は最後まで大切に扱われるべきものと思

86歳で棲みなれた土地を離れて環境の違う都会に出てきて、何かととまどいもあったと思う。一番心配したのは、転居が原因で

共につき合う心が大切。残存能力の活用を心がける。その時も

それで、散歩を毎日午前と午後

「義母(姑)の見守り・看取り」

加できる機会をつくる。

アイセンターや昼食会などにも参加

来た時は、近所を歩きお顔などじみと話をする。季節の行事を大切に

本人の意思を尊重して、心の交流を心がける。また、地域や社会との接点をいくつか作り参加できるようにしておく。散歩が出来るようにしておく。散歩が出来た時は、近所を歩きお顔などじみと話をする。季節の行事を大切に

にした。また、週1回老人会食会に参加、デイサービスやショートステイの利用なども定期的にした。その時は、母もいっしょに行動してもらった。終盤には家にプロの介護も入ってもらった。毎週主治医の往診1回、訪問看護師2名が2回。そして、訪問リハビリ師2回の訪問があった。また、義理の妹の応援も頼んだ。義母は電話でその娘とよく話をしていた。

その人となりを知ることと、大切に思うことは、その人の生きてきた歴史を知ることから始まると思うし、客観的にその人を見ることができると思う。聴いた話は記録して和とじの手作り本を作った。それを誕生日など記念日にプレゼントして、喜ばれた。

「母の見守り・看取り」

母の家は同じ阿倍野区内にあり、自転車で10分ほどの距離。父親が亡くなった後も1人住まいで頑張っていた。母の見守りは86歳から93歳まで在宅でした。その後は特別養護介護施設に入所した。姑と母との見守りと介護が、ほぼ同時期に始まったので世話をどのようにしていけばよいか考えた。専門家に話を聞くと同じ家に住んでもらって世話をするのは楽なように思うが、いろいろな問題も出てくる。それぞれの生活状態を大切に考えると、離れている方がよいと言われた。それで母は母の家で過してもらった。1人住いは火の元が危ないと考えてガス栓を閉めた。そのため朝・昼・晩の食事を作り運んだ。1人住まいの寂しさを紛らわせることも大切なので、文鳥の世話をしてもらったり、散歩してもらったりした。また、ヘルパーさんには

お知らせ

＜サロン・あべの＞5月の出会い

内 容…誰でも楽しめる手作り万華鏡
 お客さま…米村金治さん
 大阪市教育委員会インストラクター
 バンク「草花クラフト」登録
 材 料 費…100円
 日 時…5月16日(土) 午後1時～4時
 場 所…育徳コミュニティーセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
 TEL 06-6621-1901
 最寄り駅＝
 地下鉄御堂筋線「西田辺」(エレベーター有) 下車すぐ
 申し込み・問い合わせ先…
 TEL 06-6691-1028 (富田慶子)

週2回きてもらっていた。夜は10時ごろに行き、就寝前のトイレをうながし、戸締りをして帰った。ことを考え施設入所の決断をした。「介護はプロに、愛情は家族で」の言葉を実践に移した。それでも母はデイサービスや

母の施設入所を考えたのは、阪神淡路大震災の時。その時、すぐに見に行けなかった。家族の見守りや介護も大切ではあるが、離れていては緊急の時に行けなかつたり、介護者が倒れた時の真などを貼った。母からは懐か

しい話も聴けた。和やかな思いも味わった。また、聴いた話はいまとめて和とじの手作り本にした。

「おはぎのたどる道(母の名前がはぎ)」と題して4冊作った。また、公文の俳句カードやことわざカードを拡大(はがき大)して作った。鉄道唱歌などの歌の本も毛筆で大きな字に書き写したりして、誕生日や敬老の日などに贈った。カードを選んだり、俳句を読み上げたりすることは、頭と手指の運動にもなった。

「介護疲れをしないために」

高齢者の介護を家族だけでするのは、いろいろとあるのでその時が来てもおたおたしないように考えた。

- 1 日課を決めて計画的にする。
- 2 老化による心と体の変化を知る。

いろいろな介護教室・研

修会に参加する。

アンテナをはって、介護保険・第3者評価・ユニットケアなど、情報を得て参加する。

□ 家族会に参加。

ハ 心の相談室を利用する。

専門家の話を聴く。

3 必要な物を使いやすく準備する。

「介護者の健康」

介護される人も大切であるが、介護する人の健康はもっと重要で大切である。あなたも大切、私も大切と5分5分で考える。また、これからは老・老た、これからは老・老介護に移ってゆくので、自分を7分、介護を3分くらいで考える。心身の疲れを溜め

る。心身の疲れを溜め

込まないように、休養と睡眠をたくさんお持ちくださり、拝見

しつかり取り、バランスのよい食事をとる。楽しいものを見たり、趣味を楽しむ時間を持って、お話をした。

ストレスの解消をはかる。共に (参加者22名 富田慶子)

大切な人でありつづけるために、

無理をしないこと。終わりよければすべてよし、すべてのこと

は「なるようになる」と腹をくくってがんばってほしい。

この日、手作りの本やカード

付記：横尾禮子さんが代表を務める阿倍野介護家族の会「えがおの会」の話は次の機会にお願いすると、今回は簡単に概要を紹介しておきます。

阿倍野介護家族の会「えがおの会」

介護を必要とする人をかゝえる家族がお互いの交流を通して支えあい、介護の知恵や知識を高めるとともに、広く地域の人に認知症やパーキンソン病などに対する理解を深め、安心できる暮らしをめざす。

○活動

① 毎月第3水曜日午後1時～3時

* 要介護者の様子・介護状況・困惑・喜びなどを順次参加者が発表していく。

* 癒しタイムとして、最後の15分は会員の特技(大正琴・朗読・独奏など)を・・・合唱・盆踊りなどして気分転換をはかる。

② 会報「えがお」の発行

不参加の会員や地域の人々に家族会の介護の現状をPRする。年間10回発行(09年3月号で227号になる)

③ 講演会、研修会など開催。

○事務局

阿倍野区在宅サービスセンター

55



邦子、 55歳の手習い。

デニスさんの自立へのチャレンジ③

12歳で視覚障害者になったデニスさんは、パークレーで障害者自立生活運動に関わり、その後、自然科学を勉強するために、パークレー大学に入学しました。1989年にインタビューした時は、PHD(博士号)取得を目指していました。

デニスさんは、PHD取得までこられたのは、大学が助手や朗読者のためのお金を援助してくれたこと以外には、「私の生き方が関係しているのではないかと思います。例え

ば、私は川下りが好きで、ポリオの障害をもつ人と2人で川下りをしたことがあります」と語ってくれました。彼は、腕は使えないけれども目が見えるポリオの障害者が指示を出し、彼がボートをこいで、2人でお互いに補い協力すれば、川下りができるのではないかと考えました。そして、ボートを買って、2人で5年間にありとあらゆる川で川下りをしたそうです。みんなは、最初はそんなことができるわけないと言っていたそうですが、実際にできることがわかると、すんなりとできるといふことを受け入れてくれたそうです。また、彼はロッククライミングが好きで、それにも挑戦しました。その時も、みんなは無理だからやめとけ、できないと言ったそうです。しかし、何年かの間に、いろんな所に登ることができるということを知ったそうです。

デニスさんは、「私が大学院に入るまでの人生は、人にできないと言われたことを何でもやってみるといふことでした。やってみると、結果的にみんなが受け入れてくれました。そういうことが多かったので、また、そ

ういう生活をしていたので、理系の大学院に入ってもやればできるのではないだろうか、できればみんな受け入れてくれるのではないかと考えていましたが、とてもそういう風にはいきませんでした。今の学問の分野では、未だに受け入れてもらえないし、受け入れてもらうのにどう対処していいか分かりません。他の分野とは違うなという気がしています。また、そういう差別は、この分野では根強いと思います」と語ってくれました。

デニスさんは当時38歳で、月に670ドルの障害者扶助を受けながら研究を続けていました。彼は「去年の秋に子どもができました。それもあって、仕事を見つげるためにも後2カ月でどうしてもPHDをとれるようにがんばっています。学部からの4年間のお金の援助もなくなりましたし、学生ローンも借りるだけ借りたので、お金もだんだんなくなってきました。借りたお金もありません」と語り、経済的にも大変なようでした。しかし、将来の第1の夢は「どこかの大学で植物生理学を教えることです」と力強く語ってくれました。

私の夫が、「障害者にとって困難な理系の分野でPHDをとるだけでも大きなことです」とデニスさんへの思いを伝えると、デニスさんは、夫に「先生の知的な関心や一生懸命やっている様子や障害者への関心がひしひしと伝わってきます」と応えてくれました。私は、夫のことを褒めていただいたこともうれしかったのですが、デニスさんが物静かで思いやりのある素敵な人だったことを今でも覚えています。デニスさんの場合のように、障害者自立生活運動は、障害者が今までできなかったことにチャレンジする勇氣と希望を与えてくれたのではないかと思います。

(定藤邦子)

ありがとうございました。

カンパ、切手・お茶菓子の寄贈、また、サングラスのお買い上げなどありがとうございました。

カستاネット、伊東裕子、岡賀寿子、岡知史、小西京子、実重久美子、竹村定子、脇坂博史、その他のの方々。(敬称略)

晴れのち晴れ-127-

稲垣恵雄

□草餅

春らんまんの4月を迎えた。肌に触れる日差しは一層明るくなり、野山には色とりどりの花が咲き誇るようになる。そしてどこまでも広がる青空に浮かんでいる白い雲がどこことなく暖かく見えるのもこの頃である。

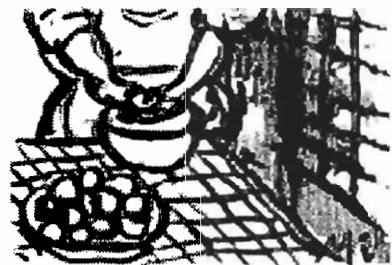
このように過すのに最適な陽気だけに外に出て思い切り手足を伸ばしたり、身体を動かしてみたくなる。

ところで4月といえばいろんなことが連想されるが、甘い物の好きな私は草餅を思い出す。私の幼い頃には今は亡き祖母が春になると必ず草餅を作ってくれた。

祖母はその前日に近くの川の土手で萌え始めた蓬を摘んできて、明るる朝の早くから草餅を作り始める。私は祖母のそばでじ

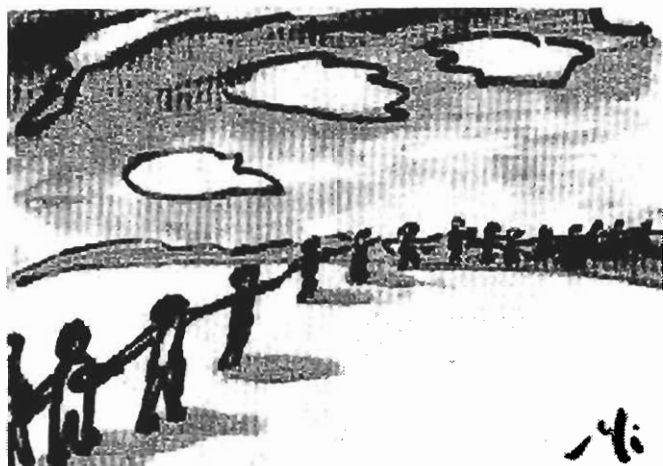
っと見ていると、最初に蓬をさっと茹で粉をこねてトントン突くと若草色の餅になる。それを適当な大きさに丸めてきな粉をふりかけると出来上がりである。そうすると周囲に何とも言えない蓬の香りが漂い、食いしん坊の私はすぐにでも食べたくなるのだった。でも祖母は先に草餅を器に入れてお内仏にお供えた。それから家族そろって頂くのだが、今でも草餅のほんのりした味と甘さが口中に残っていて、祖母の柔和な顔を思い出す。

この時期は草餅の他に塩漬けの桜の葉に包んだ餡入りの桜餅やわらびに米の粉を混ぜて作ったわらび餅、きな粉にうぐいす色の餡をかけて作ったうぐいす餅があるが、私は口に合うのか草餅が好きである。



当事者が専門職か

自助グループとか当事者組織と呼ばれているグループについて、私はもう二十年以上、研究しているのだが、そのころから今日までずっと問題になっていることが一つある。それは医師やソーシャルワーカーなど人への援



助を仕事にしている「専門職」と呼ばれる人たちが、そのグループにかかわっていたとしても自助グループと呼べるのかどうか、ということである。

つまり、自助グループとは定義からすると、当事者が中心になり、当事者によって運営されているグループのだが、実際には専門職が中核的な役割をもつてかかわっていないが「自助グループ」と呼ばれ、自らもそう呼んでいるグループがかなりある。そういった専門職主導のグループも「自助グループ」と呼ばれる実態がある。それが「良いこと」なのかどうか、それが問題なのである。

「呼び方なんてどうでもよいではないか、大事なのは内容だ」という意見もあるだろう。しかし、たとえば「自助グループを社会は支援すべきだ」と言うとき、その「自助グループ」に専門職が主導しているグループも含めて考えられているのかどうかは、その後の支援のありかたまでも変えてしまう問題になる。単なる名称の問題だけではなく、社会の資源をいかに配分するかという極めて実際

的な事柄にも関係してくるのである。

一般的に言えば、専門職の人たちの多くは「専門職主導のグループ」も自助グループとして含めるべきだと考えているようだ。なぜなら当事者だけで行うグループは「当事者の知恵」しか使えないが、専門職主導のグループなら「専門職の知識」と「当事者の知恵」の両方が使える。「道具は一つよりも二つあったほうが良い」と単純に考えるわけである。そのとき「当事者ではない者がその場において安心して話すことができない」という当事者の基本的な心情は忘れられている。

今年度から全国一斉に社会福祉士養成のために学校で教えられる内容が大きく変わる。そこでは「自助グループ」が重要な概念として教えられることになるのだが、その解釈では明らかに専門職主導のものも自助グループに含まれている。

「米国では・・・」と、自助グループの歴史が長い米国の例を使って、この傾向に「反論したいところだが、残念ながら、かの国でも専門職主導のグループも自助グループに含む傾向にある。しかもその傾向は反転する兆しがほとんどない。

それは何故なのか。これにはいろいろな理

由があると思われるが、ひとつには専門職がその研究や教育を通して蓄積した専門的な知識は、当事者がその経験を通して得た知識よりも価値があるという社会通念があるからだろう。自ら経験した当事者は、学校で学んだ専門職ほど信頼されていないのである。

ならば、どうすればいいか。私は古い言い方をもじって「万国の当事者よ、団結せよ」と言いたい。いくら当事者が経験を通して知識を得ても、それが自分だけの個人的な経験だけに拠（よ）るのであれば、おのずと限界がある。専門職はそれぞれ専門職団体をもち、長い歴史のなかで知識を交換する膨大なネットワークを築いている。それに比べて当事者はまだまだ孤立している。経験的知識を交換するネットワークも全く未発達なのである。

障害や疾病や生活課題の差異を超えて当事者は交流すべきだと思う。それによって初めて専門職に対抗できるだけのネットワークをもつことができるだろう。「自助グループは当事者だけで行われているもので、専門職主導のものは自助グループとは言えない」という主張が真に広く社会的に受け入れられるのは、厳しいようだが、その後のことだと思ふのである。

(知)

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第273号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第273号までそろっています。
- (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳DJ)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
 - (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけっと音訳)
 - (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ)
 - (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ)
 - (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
 - (r) 「勁くしずかに」(河野勝行編・著＝糸でんわ音訳)
 - (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ)
 - (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
 - (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
 - (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ
- ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

Mai スウェーデン 留学記 29

スイスへの旅 ①

ご無沙汰しております。3度目のスウェーデンの旅から帰国しました。たくさん留学時代の友人と新しい友人との出会いが、また私に新たな力を与えてくれたのですが、またこの話は別の機会といたしまして、今回は私が留学中、スイスに行ったときのお話にしましょう。

もう3年ほど前のことになりましたが、帰国する1カ月ほど前にスイス人の友人を訪ねにスイスに6日間滞在しました。スウェーデン語サマーコースで知り合って、すぐに仲良く

なった友人2人。ぜひスイスで会おうということになりました。

ヨーロッパ内を移動するとき、たいていの国はシェンゲン条約に加盟しているため、国内移動と変わりはありません。私がスイスに行ったとき、スイスが条約に加盟する前のことだったので、パスポートを持ち、税関を通らなければいけませんでしたが、スウェーデンといっても南部なので、いつも移動するときには、デンマーク・コペンハーゲンからです。この時もコペンハーゲンの空港からスイス・チューリッヒまで、飛行機の手ケットもすべてインターネットで予約して、行きました。ヨーロッパ内であれば、だいたいどの国に行くにも直行便であれば3時間。スイスまでは2時間弱です。あつという間に到着してしまします。

チューリッヒの空港で、友人が迎えに来てくれていたので、再会のハグをして友人宅へ。チューリッヒは首都ではありませんが、とても活気があります。古い町並みを残しながら、近代的な建物もあり、何より人の行き来が多く、スウェーデンと比べると人も人が多く感じられました。スウェーデンではいつも静か、首都・ストックホルムでさえ、そ



チューリッヒ湖からチューリッヒの街並みを眺めて

れほど人は多くありません。だからいつもスウェーデン以外のヨーロッパの国に行くと、賑やかさ、華やかさがあり、驚いてしまうのです。もともと賑やかな雰囲気の方が好きなので、チューリッヒの都会的な華やかさに魅かれてしまいました。友人に感想を聞かれたので、「すごく人が多い！」って思わず言っていました。日本に來日したこともある友人に笑われてしまいました。「日本ほどじゃないでしょ！」と。でも、スウェーデンと比べると、こんなに違うのかと少しカルチ

ヤーシヨックでした。

チューリッヒの中央駅に到着すると、その差は歴然でした。ストックホルムの中央駅とは比べものにならないくらい活気のある駅、人通りの多さ・・いつも感じるのが、スウェーデンから1歩出て、ヨーロッパの国に行くと、スウェーデンの静けさが物足りなくなってしまう。パークエクトといってもおかしくない社会システムを持つスウェーデン。でもあまりにも完璧すぎて、少し退屈・・それが他の国に行くと余計に感じてしまうことです。

目に入るもの、すべてが新鮮、そして刺激。友人は、まず電車の乗り方を教えてくれました。それが一番有難かったです。中央駅で乗り換えて、友人宅までは電車で10分。最寄り駅の真ん前のアパートが自宅です。静かな



チューリッヒの街並み

チューリッヒ郊外の町。到着したのが夕方

だったので、すぐに夕食ということで、近くの町まで車で移動し、小さなレストランで歓迎を受けました。チューリッヒのお料理、子牛を使ったスイス料理。私達は、スウェーデン語でも会話はできませんが、友人の旦那さんがスウェーデン語はわからないので、英語で話すことになりました。スウェーデン語のサマーカーコースで知り合った友人たちは今でも一番仲の良い、付き合いの長い友人たちばかりです。不思議な縁で、私達は当時の思い出を語り合ったりしながら、楽しい時間を過ごしました。

食事の後は、夜のチューリッヒの街へ。教会や橋がライトアップされて、幻想的な雰囲気醸し出していました。

現在は、ヨーロッパも大不況で連日経済危機についてのニュースが報道されており、3年ほど前は、円安ユーロ高。スイスはまだスウェーデンと同じようにユーロに加盟していませんが、スイスの物価はスウェーデン以上に高い状況でした。友人から、「スイスでタクシーは乗らない方がいい」と言われ、できるだけ歩くか、無理であるならトラムや電車を利用するのがうまく旅行するコツだと

教わりました。

翌日は、友人の旦那さんにチューリッヒの街を案内してもらい、チューリッヒ大学も見学、教会の塔に登ったり、夜には、小高い丘に上り、夜の街を見渡しながら、とても素敵な時間を過ごすことができたのでした。

ヨーロッパと一口にいっても、それぞれの独自の文化があり、言葉があり、皆違っています。スイスは、ドイツ語圏、フランス語圏、イタリア語圏、ロマンシュ語圏という4つの言語を持ち、それぞれの文化を形成している国です。

私にとって、スイスは5歳のときの初海外の思い出がある国。以来、もう1度訪れようと心に決めていました。その念願が叶った喜び、そして今度見たスイスは、スウェーデンの文化と比較でき、とても面白いものになったのでした。

この後、私は、友人に案内され、首都ベルンやツーク、ルツツェルンなどの街を訪れたり、素敵な新しい出会いや、サマーカーコースで出会ったもう1人のスイス人の友人と再会したりし、大満足の旅を終えてスウェーデンに戻りますが、また次回にしたいと思えます。

(清原 舞)

美智子のこんな話

岸田美智子

今後の住吉区アクションプランについて

群馬県で先日、生活保護で生活をしている高齢者の方の住宅として運営されていた、入所施設で悲惨な火災があり、10人くらいの方が亡くなられたというニュースが、新聞に掲載されていました。この入所施設は、高齢で行き場のない人たちの受け皿として運営され、区役所などの行政から紹介されて入居した利用者が多かったと、報道されていました。行政がこのような無認可で不法な増築で悪質な施設しか紹介できないという、この国の福祉のあり方が浮きぼりになった火災事故、だったと思います。

このような火災事故は、障害者の場合でも十分考えられます。私も、1人暮らしを初め

て今年で10年目になります。その自立生活ではいろいろな課題が出てきていますが、その中でも、いつもいつも気になっていることは、やはり地震や火災などの災害時の避難体制や避難生活のことは、なにより心配です。私の自宅は、今のところ普通のマンションの2階なのですが、エレベーターも狭くて車いすがまっすぐ入れず、横向きにならないとエレベーターの扉が開まらない状態です。非常階段は、らせん階段でたとえヘルパーさんがいても、いざというときにも使用することができません。なので、災害時には誰かが助けに来てくれるのを待つか、窓から命がけで落下するか、しか思いつきません。このような、災害時の問題は自立障害者だけの問題ではなく、もちろん在宅障害者や、高齢者、子どもたちや妊娠されている方、など災害時の弱者対策として大きな地域社会での課題だと思います。このような災害時の避難体制づくりに1歩でも2歩でも取り組んでいこうと、住吉区アクションプランの高齢・障害者部会で動き出しています。とりあえずは、先駆者的に取り組んでおられる西成区の、緊急時要援護者登録制についての学習会を行います。またこのコーナーで、学習会の内容を報告できたらと、思っています。

絵がうたうー

絵とうたうー

童謡♪絵はがき

・春 ・海

・夏 ・花Ⅰ

・秋 ・花Ⅱ

・冬Ⅰ ・子ども

・冬Ⅱ ・雨

・汽車 ・川

・5月 ・母

・お正月

もらった人も、思わず、

歌いたくなる、うれしい、

楽しい「絵はがき」

童謡♪絵はがき

■5枚1組 ¥180

☎090-3949-6973



5月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」5月の出会い

日時：5月17日（日）午後1時30分～4時
内容：風薫る皐月コンサート

－沖縄民謡から津軽民謡・童謡を貴方に－

ゲスト：おっきー&ヒガチーさん、
沖中路子・東賢司のデュオ演奏
場所：「淀川区社会福祉協議会・やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3

会費：なし

問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビュー
ロー）〒532-0005 淀川区三国本町
2-14-3 ☎06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」5月の出会い

日時：5月23日（土）午後1時30分～3時30分
内容：未定
ゲスト：未定
場所：未定
会費：なし

問い合わせ先：中本 ☎090-9864-9678

■「ウイズ東淀川」5月の出会い

日時：5月10日（日）午後1時30分～4時
内容：未定

パネラー：脇坂博史氏
場所：NPO法人自由空間クラブ
大阪市東淀川区淡路5丁目

会費：なし

問い合わせ先：鈴木昭二
☎06-6340-3082
FAX06-6340-3012

■「サロン・にし」5月の出会い

日時：5月9日（土）午後2時～4時
内容：「子どもたちに、きれいな海岸を」
大阪の海や川の環境問題について学ぼう！
場所：西区在宅サービスセンター「にしがほり」
大阪市西区新町4-5-14

会費：なし

問い合わせ先：宮脇淳

■「サロンいたみ」5月の出会い

日時：5月16日（土）午後2時～

内容：癒しの美容
場所：伸幸苑
伊丹市寺町6-150

会費：なし

連絡先：安藤れい子
☎072-784-1718

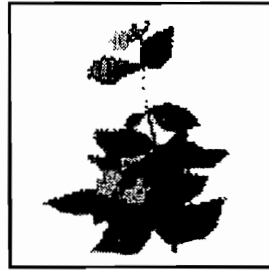
私らしさを伝える
サロンの一筆箋

普段はメールや携帯電話
でコミュニケーションを
取る人も、ここはひとつ
手間をかけよう、という
ときがある。
そんなとき、
その人らしさを伝える、
サロンの一筆箋。

サロンの一筆箋

一冊一〇〇枚綴一五〇円

●花の
かおりを
はがきに
のせて



サロンの
絵はがき

—花だより五集

5枚1組180円

寄りみち



■童謡♪絵はがき・春よ来い。草履の字が示すように麻や草を草履の裏に敷いた草履全般をいわゆる「じょじょ」といっていました。歩き始めたばかりのみいちゃんが早くじょじょをはいて外で遊びたいと、雪解けの春を待っています。早く来い・・・と、春待ちきれない可愛い幼な子の視点を通して、雪に閉ざされた越後の冬で静かに春を待ち望む人々の強い思いが伝わってきます。ところで、早稲田大学「都の西北」、日本初の流行歌「カチューシャの唄」、童謡「春よ来い」など、今も日本で愛されている名曲の作詞者・相馬御風は、抒情歌人、詩人、随筆家、小説家、自然主義評論家、作詞家と、文芸全般にわたって活躍しました。(石)

<サロン・あべの>VOL. 274 発行：平成21（2009）年4月18日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/oka/salon/「サロン あべの」でも検索できます

一九九一年九月三日第一種郵便物認可（毎日発行）